

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No. 12

日本デイケア学会広報委員会
2006年2月15日 発行
日本デイケア学会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-14
株式会社キタ・メディア内
TEL: 03-3813-6368
FAX: 03-3813-6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
URL: http://www.daycare.gr.jp

**日本デイケア学会第11回年次
大会に向けて**

柏木 昭

昨年の新潟における第10回年次大会は創立10周年を記念する大会として、盛会のうちに終了しました。まことに関係者ご一行のご尽力の賜物です。本年は舞台を熊本に移します。日本中が保健・医療・福祉制度改革の真只中であって、何かと対応に苦慮され忙しいさなか、よく大会開催を引き受けていただきました。感謝のほかありません。

大会テーマは「心豊かな生活を支援するために～デイケアの実践そして挑戦～」となっています。デイケア・デイサービスの利用者が豊かな生活を送ることを願い、その支援のためにデイケアは何をすべきかが論議の中心になります。「心豊かな」というのは、利用者一人ひとりのQOLが最高の水準の状態にあると言うことになりましょう。物質的なニーズの充足は非常に大事です。同時に精神的なニーズの充足による満足と安定こそわれわれの狙いです。マズロウの言葉を借りれば、利用者もまた職員も「自己実現のニーズ」が充足するような状況を創り上げる一つのステップにしていくことだと思います。

さて、昨年10月31日第163回国会において「障害者自立支援法」が成立しました。熊本大会会長の三村孝一先生による大会開催の趣意書にも「この法律は身体、知的、精神の3障害の福祉サービスを一元化し、限られた社会資源をより効率的に提供する仕組みを強化すること、障害の程度やニーズに応じた自立支援や就労支援を提供すること、国の費用負担を明確にする代わりに利用者に公平な負担を求めること、などを基本的

な視点として上げています。」とある通りですが、率直に言って、本法は国民のニーズ充足に係る国の責任を希薄化するものと言わざるを得ません。また小さな政府への制度改革を名目に、障害福祉計画に基づいたサービスの種類や量、デイサービスをはじめとする社会参加に係る障害者施策の大幅な責任を市町村に委譲しましたが、人がどこに住むかによって受けるサービスの質と内容に格差ができるような状況が目に見えます。国が市町村路線を打ち出すには未だ時期尚早と思われるてなりません。

また趣意書には「平成18年度に予定される医療制度改革については、精神科における長期社会的入院の是正と地域精神医療への転換や高齢者、認知症に対する在宅支援の充実等が図られる事となる」「まさに平成18年度は、医療、保健、福祉にとって激動の時期」であると述べられており、益々、デイケア・デイサービスの果たす役割には極めて大きなものがあると考えられます。

さて年頭に当り、これからのデイケア・デイサービスのあり方や方向性について一言私見を述べてみたいと思います。先ず利用者を単に精神障害者や認知症者と規定するのではなく、病気や障害は誰にでも共通に、疾患一般を持つ生活者と確認することから考え方を進めたいと思います。これは特定の弱者・障害者として対象化しない、或いはし得ないことを意味します。したがって、利用者の主体性を先ず何よりも先に尊重することが求められると考えます。さらに個々の職員の主体性の回復が求められます。利用者との相互的な人格の交流の場であるデイケア・デイサービスにおいて、自らの主体性を保持し得ない人間が、どうして利用者の主体性を認めることができるのでしょうか。そこに生じる機能としては、相互的信頼と自由な討議の保

障が必須のことになります。身分的にも、デイケア・デイサービスのすべての構成員は対等な関係を保持しなければなりません。職員も一票の投票権しか持たないことは言うまでもありません。職員の側に現存する権威性を払拭する構えが必要であります。集団内の相互交流と協調こそがパワーになっていくようなデイケア・デイサービスにしたいと思います。そこにはいい意味での統御と調和の中で、集団が成長し、利用者も職員も共に社会的成長を遂げるのであります。利用者の回復過程はこのようにして進行するはずです。かくして両者が社会的な生活者としての働きをまっとう出来るようになることが望まれます。利用者も職員も生活者として創造的な生を生きることができるようになることが期待されます。

第11回熊本大会への多数の方々のご参加をお願い致します。

(日本デイケア学会理事長)

日本デイケア学会第10回年次大会を開催して

第10回年次大会会長 松田ひろし

日本デイケア学会第10回年次大会は「聴こう 語ろう 私達の実践」をテーマに、平成17年9月22日、23日、24日に新潟市で開催されました。この学会創設10周年の節目に年次大会を開催したことは大変名誉なことであり、関連者一同は有意義な大会になるよう趣向を凝らしいろいろ準備を致しましたが、その途中で新潟中越地震に被災し一時大会の実行委員会が機能不全となり、皆様に大変ご心配、ご迷惑をおかけしました。幸いにも皆様のご厚情により94演題がエントリーされ、また当日は大勢の方々にご参加いただき心よりお礼申し上げます。

この大会では日々のデイケア・デイサービスの実践の場でのさまざま取り組み・工夫・アイデアや悩み事などについて語り合うことを大きな目的としました。

記念講演として、新潟大学教授染矢俊幸先生より「精神医療の変遷と将来展望」と題してお話をいただき、詳細なデータ分析をもとに将来の精神科ベッド数

の減少を予測され、さらに精神科医療のあり方にも言及されました。また、特別講演として新潟大学名誉教授加藤傳一先生より「良寛さんの心」と題してお話をいただき、時代を超えて何故良寛が人の心を打つのかなど感銘深くご説明されました。

シンポジウムⅠ「高齢者デイケア・デイサービスの実践と課題」では今日注目されている筋力トレーニングはじめ、ユニークでありながらすぐにでも実践できるさまざまな活動について報告していただきました。温水プールの利用やマシントレーニング、地域交流、大規模だけでなく小規模多機能なサービスへの課題、さらにボランティア活動などについてのディスカッションがありました。シンポジウムⅡ「実践する精神科デイケア」では設立母体の異なるデイケアでのそれぞれの実践や問題について報告がありました。訪問看護の重要性、地域支援センターとの連携、デイケアの終了についての工夫、PTSD事例におけるデイケアなどについて話があり、それらをふまえて当事者からのコメントがありました。

さらに3セミナーがありました。高齢者については、たきの里施設長岩尾貢先生より「多様化するデイケア・デイサービス・その原則」と題して、また精神科一般ではオフィスラマツパ月崎時央先生より「精神障害のある人と一緒に働くということ」と題して、それぞれお話をいただきました。また、東京医科大学教授飯森眞喜雄先生には「芸術療法さまざま」と題してすぐにでも現場で役立つ内容のご講演をいただきました。

大会3日目はワークショップ(研修会)を開催し、前半に講師の先生方の講義をいただき、後半で各テーマごとに意見交換等を行いました。

この大会を通じて、障害者自立支援法や改正介護保険法の中でデイケアがどのような役割を積極的に果たしていくべきかについて繰り返し語られ、それなりの問題意識を共有できたのではと思います。

次期大会は熊本で開催されますが、さらに多くの方が参加され、活発な意見交換や交流がなされることを祈念致しております。

(立川メディカルセンター柏崎厚生病院 院長)

◎日本デイケア学会第11回年次大会◎

趣 意 書

平成16年10月厚生労働省は「今後の障害者保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」を発表し、平成17年10月31日第163回国会にて「障害者自立支援法」が成立しました。この法律は身体、知的、精神の3障害の福祉サービスを一元化し、限られた社会資源をより効率的に提供する仕組みを強化すること、障害の程度やニーズに応じた自立支援や就労支援を提供すること、国の費用負担を明確にする代わりに利用者に公平な負担を求めること、などを基本的な視点として挙げています。

また、平成12年4月に施行された「介護保険法」は5年後の見直しにて、平成17年10月から一部改正があり、平成18年4月から改正が本格的に実施されます。今回は予防重視型システムへの転換として新予防給付への取り組みや地域支援事業の創設が盛り込まれています。

さらに、平成18年度に予定される医療制度改革については、精神科に於ける長期社会的入院の是正と地域精神医療への転換や高齢者、認知症に対する在宅支援の充実等が図られる事となります。

まさに平成18年度は、医療、保健、福祉にとって激動の年といえるのではないのでしょうか。

この様な中、社会生活力の向上や心身機能の回復維持を担うリハビリテーションとしての「デイケア」の意義は更に大きく評価されるものになっています。

今、私達にはこの変革期に基本を学び、精神障害者および高齢者に対し何ができるのか考えていく姿勢が求められています。

今回はテーマを「心豊かな生活を支援するために～デイケアの実践そして挑戦～」として、精神障害者および高齢者が、地域生活を営む上でより効果的に利用できるデイケア、あるいは通所デイサービスの運営につながるような内容を企画し、大会参加者が実践力を身につけ、それぞれの職場で役立てていただけることを目指しています。

学会会員の皆様をはじめ、デイケアなどの実践を行っている関係機関の皆様方、多くの方々に参加していただけるように頑張っていきたいと存じますので、御理解、御協力の程何卒よろしくお願いいたします。

平成18年1月末日
日本デイケア学会第11回年次大会長
(日本精神科病院協会 熊本県支部長)
三 村 孝 一

日本デイケア学会第11回年次大会のご案内

大会テーマ 『心豊かな生活を支援するために』

～デイケアでの実践、そして挑戦～

大会長

三村孝一（日本精神科病院協会 熊本県支部長
医療法人信和会 城ヶ崎病院 院長
介護老人保健施設 樹心台 施設長）

会 期

平成18年9月21日(木)・22日(金)・23日(土・祝)

学 会 ：平成18年9月21日(木)・22日(金)

ワークショップ・市民公開講座：

平成18年9月23日(土・祝)

会 場

熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市大江2丁目7-1

TEL : 096-363-2233 / FAX : 096-371-5246

JR熊本駅より タクシー約15分 熊本交通センターより タクシー約10分

熊本空港より タクシー約30分 高速道路 熊本インターチェンジより約20分

記念講演Ⅰ：「改めてデイケアの意義を問うー学会新しい10年の出発に際してー」

柏木 昭（日本デイケア学会 理事長 / 聖学院大学大学院 教授）

記念講演Ⅱ：「自立支援法と介護保険法改正にみる医療保健福祉の動向について」(仮)

(厚生労働省) 予定

特別講演 ：「音楽を通しての心のふれあい」

チャーリー永谷 様（カントリーミュージシャン・熊本県民栄誉賞受賞
テネシー州他33州の「名誉市民」の称号授与）

シンポジウムⅠ（高齢者）：「新たな介護予防における通所サービスの現状と課題」

シンポジウムⅡ（精神科）：「自立支援法についてー施行後どう変わったのかー」

高齢者セミナー：「高齢者における在宅ケアと自立支援」

講師 橋本 泰子 先生（大正大学 教授）

精神科セミナー：「階層化する社会と精神医療」

講師 春木 進 先生（熊本日日新聞社 論説委員）

市民公開講座：「新刊『夢の架け橋』より 介護・家族・人生とは・・・」

講師 橋 幸夫 様（歌手）

◎演題募集について◎

日本デイクア学会第11回年次大会では、デイクアに関する演題を広く募集します。

今回はホームページ上で演題申し込みと抄録原稿を同時に受け付けます。

ホームページは現在（12月末）工事中で平成18年2月上旬に開設予定です。

演題および抄録原稿の募集期間は、平成18年3月15日（水）～5月15日（月）正午までを予定致しております（オンライン登録）。演題を申し込まれる方は、ホームページの演題募集要項をよくお読みの上、基本事項（氏名/所属/住所/演題名/口述・ポスターの別/E-mailアドレス等）を入力後、抄録（Wordファイル）を添付してお申してください。投稿者には登録完了後、受領をメールでお知らせいたします（24時間以内）。尚、採否通知やその他のお知らせに関しましても後日メールにてお知らせいたします。

〈募集要項〉

【口述発表】

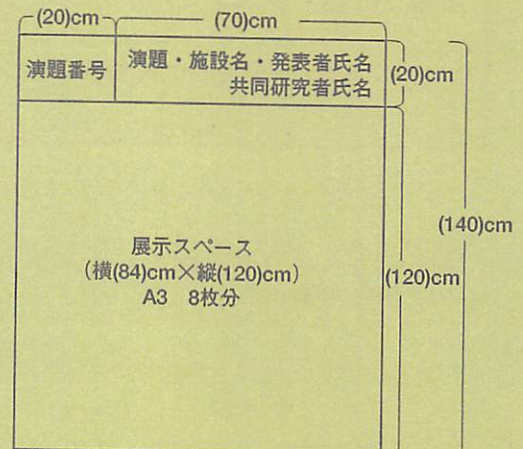
- 演題発表は口述 1 演題 1 2 分、質疑応答を 3 分予定しております。
- 口述発表は、口述のみ、またはPC プレゼンテーション（Microsoft Power Point）を原則と致します。（スライド・OHP等の準備はいたしません）尚、PC プレゼンテーションはWindowsのみに限らせて頂きます。パワーポイント使用時の動画・音声使用は不可ですのでご注意ください。その他の詳細につきましては、5月下旬までにホームページにてお知らせ致します。

【ポスター発表】

- 演題発表はポスター 1 演題 6 分、質疑応答を 4 分予定しております。
- 掲示用スペースとして横（90）cm、縦（140）cmのスペースを用意します。
- ポスターセッション指定時間には、展示ポスター前に待機して下さい。
- 作成については下記を参照して下さい。

※ 1 演題につき 1 スペースとして作成してください。

- ①演題番号は大会事務局で作成し、貼付致します。
- ②演題及び施設名と発表者名（横（70）cm×縦（20）cm）は、下図のように貼付して下さい。以下本文（横（84）cm×縦（120）cm）を貼付して下さい。
- ③文字や図表の大きさは、2 m離れた位置からもしっかり見えるようにして下さい。
- ④画鋏などは大会事務局で準備します。その他必要な物については大会事務局へお問い合わせ下さい。



〈抄録原稿の作成について〉

口述・ポスター発表ともに以下の要領にて作成して下さい。

- ・抄録（演題名、副題名、演者名（主演者に○印）及び所属・職種・共同演者名及び所属、抄録本文）は Microsoft Wordにて作成して下さい。
- ・抄録本文は必ず1000字以内として下さい（上記、演題名、副題名、演者名等含む）。
- ・Macintoshで作成される場合は、ファイルに拡張子「.doc」を必ず付けて下さい。
- ・作成されたWordのファイル名は必ず英数文字として下さい。システム上、英数文字以外のファイル名では登録できない可能性があります。
- ・演題抄録原稿には図表を使用される場合は、レイアウトの崩れなどの防止のためオブジェクトをグループ化する必要があります。写真や画像の場合は、JPEG、GIFなどの形式にて添付して下さい。

〈その他の注意事項〉

- 発表内容は、個人や団体の基本的人権を尊重し、プライバシーの保護に考慮して下さい。そのために、個人や団体名が特定されないような措置を講じて下さい。
- 演題抄録にプライバシーの侵害が危惧される場合や、偏見、差別的な用語や内容が認められる場合には、問い合わせの上、訂正を求める場合がありますので、ご了承下さい。

〈発表時間その他のお知らせについて〉

- 演題申し込み締め切り後、演題の採否結果及び会場や時間について、「日本デイケア学会第11回年次大会運営委員会」で協議の上、各演題申込者宛にE-mailにて通知致します（6月上旬頃予定）。
- パワーポイントを使用される方（口述発表者）は、発表データをフロッピーディスクまたはCD-Rに保存して8月28日（月）までに下記大会事務局までお送り下さい。

ご注意

- ◎演題発表される方（共同演者も含む）は、日本デイケア学会会員の資格が必要となります。学会会員でない方は申し込みの時点で入会手続きをお願いします。
入会手続きについては学会ホームページをご参照の上お申し込み下さい。（<http://www.daycare.gr.jp/>）

演題（口述・ポスター）申込及び抄録原稿提出期限」・・・平成18年5月15日（月）正午
「パワーポイントFD・CD-R」・・・平成18年8月28日（月）必着 [送付]

* ホームページで演題申し込みが出来ない環境の方は下記事務局で別途対応しますので
ご相談下さい

大会事務局（お問い合わせはFAXまたはE-mailにてお願いします。）

〒862-0950 熊本県熊本市水前寺6丁目43番7号くませいビル

熊本県精神科病院協会内 日本デイケア学会第11回年次大会事務局 担当 大海・越牟田

FAX 096-385-7868 E-mail : kaph137m@apricot.ocn.ne.jp

今大会ホームページ : <http://www.ics-inc.co.jp/daycare11/>

【 デイケア 西から東から、北から南から… 】

デイケア専従医師の「賞味期限」

中里 均

精神科デイケア専従医師というのがいたのをご存じだろうか。むろん公的資格ではない。ただひたすらデイケアだけを行う医師のことである。

昭和50年代半ば、まだわが国にデイケア施設がいくつもなかったころ、私は名古屋のあるデイケア施設の専従医師となった。健康保険もきかない、利用料は無料、建物はプレハブ。名古屋市がデイケアのパイロットスタディーを行う場所として設置したものである。

モデルはあまりなかった。仙台市デイケアセンター、北九州市立デイケアセンター、川崎リハビリテーションセンターなどに見学に行った。それぞれに特色があり、共通部分はまだあまりなかった。

当時、治療共同体という考え方が残っていた。これは、スタッフも利用者も上下の区別なく、まったく対等の立場で、グループとして成長していこうという思想である。まず、これを採用してみた。

しかし、治療共同体という手法がデイケアに向かないと分かるのに、さほど時間はかからなかった。利用者同士どころかスタッフ同士にも争いが絶えなかった。「一緒にマージャンをしても、スタッフさんには給料が出るんですね」というある利用者の言葉が治療共同体の幻想を打ち砕いた。

まだ若かった私は、いろいろな改革を試みた。あまり成功したとは言えないけれども、いちいち学会で報告した。

なんとか7年間、がんばった。ひょんなことから私は市中病院へ転勤となった。デイケアの喧騒から救われたと思った。要するに私の「賞味期限」は7年間だったということだ。その後、各所でデイケアが設けられるようになり、私が辞めたデイケア施設は役割を終えて、数年後に閉鎖された。

今、デイケアでがんばっている方々が、私のような苦渋を味わわないことを祈る。と同時に、デイケア専従者には「賞味期限」があることを強調しておきたい。

(豊橋市民病院精神神経科 部長)

これまでの福岡県デイ・ケア研究協議会について

西村良二

第71回の当研究協議会に特別講演の講師として榎本クリニックの榎本稔先生をお招きし、そのあとの懇親会のおりに、福岡県でのデイケア活動についての原稿依頼がありました。

福岡県での精神科デイケアの普及は、1974年にわが国初めての厚生省認可の精神科デイケアが福岡病院（当時、佐々木勇之進院長）で開設されたのに始まります。1975年には福岡大学病院精神神経科（当時、西園昌久教授）が大学病院としては第一号の厚生省認可をいただきしております。当時、精神科デイケアは入院治療とちがって新しい分野であり、当然のことながら、未経験のことばかりでした。問題の認識と理解、そしてその解決のためには仲間の間での研究と研修を必要としました。そのような理由から、県のセンター（当時、糸永義明所長）、北九州デイ・ケアセンター（当時、坂口信貴所長）、福岡病院、飯塚記念病院（豊永武盛院長）、そして福岡大学という設立母体のちがう施設が立場を超え、相互学習の場として1981年に福岡県デイケア研究協議会が組織されました。西園昌久氏が初代会長に就任しました。それ以後、久留米大学の参加をはじめ、多くの施設の加入があり、現在では34施設を数えるに至っています。研究協議会は71回、幹事会はその倍の回数開いています。また、機関誌「福岡県デイ・ケア研究ふくおか」を年1回発刊していて、第23号がまもなく刊行予定です。

デイケアが抱える問題はいくつもあります。理念、理論、治療技術やプログラムの問題、評価、社会復帰や就労、デイケアの視点と役割、連携、コスト・パフォーマンスなどです。これらの問題を考えていく場となることを望んでいます。

(福岡県デイケア研究協議会 会長
福岡大学医学部精神医学教室 教授)

日本デイケア学会役員

理事長：柏木昭， 副理事長：小林暉佳， 斎藤和子， 監事：佐々木勇之進， 弘末明良
理事：浅野弘毅， 池田良一， 岩尾貢， 榎本稔， 大丸幸， 荻澤健志， 小野寺敦志， 吉川武彦， 窪田彰，
佐々木千鶴子， 高林健示， 西村良二， 松永宏子(事務局長)， 松田ひろし， 良田麗明

評議員：五十音順

浅井邦彦(DR千葉)， 浅野弘毅(DR宮城)， 池田良一(DR千葉)， 岩尾貢(PSW石川)， 内田洋一(OT茨城)， 榎本稔(DR東京)，
大丸幸(OT福岡)， 荻澤健志(CP東京)， 小野寺敦志(CP神奈川)， 加護野洋二(DR大阪)， 柏木昭(PSW埼玉)，
川副泰成(DR千葉)， 吉川武彦(DR岐阜)， 窪田彰(DR東京)， 熊倉徹雄(DR福島)， 栗原活雄(PSW東京)， 栗原毅(CP千葉)，
小杉好弘(DR大阪)， 小林暉佳(DR東京)， 小谷野博(CP東京)， 斎藤和子(NS千葉)， 桜庭繁(NS京都)， 佐々木千鶴子(PSW宮城)，
佐々木勇之進(DR福岡)， 菅野圭樹(DR福島)， 高江州義英(DR沖縄)， 高林健示(CP東京)， 田中英樹(PSW長崎)，
津尾佳典(DR岡山)， 長瀬輝誼(DR東京)， 西園昌久(DR福岡)， 西村良二(DR福岡) 原敬造(DR宮城)， 平川淳一(DR東京)，
平田豊明(DR千葉)， 弘末明良(DR茨城)， 藤井康男(DR山梨)， 穂積登(DR東京)， 堀内久美子(OT東京)， 松田孝治(DR大阪)，
松田ひろし(DR新潟)， 松永宏子(PSW東京)， 三浦彌(DR札幌)， 山中恵子(OT東京)， 良田麗明(DR東京)

渉外委員会：弘末明良(委員長)， 榎本稔， 斎藤和子， 松永宏子(事務局)

広報委員会：榎本稔(委員長)， 栗原活雄， 小谷野博， 高林健示， 佐々木智子， 城田晴夫， 良田麗明， 松永宏子(事務局)

研修委員会：松永宏子(委員長)， 川副泰成， 栗原毅， 井上牧子， 内藤清

編集委員会：浅野弘毅(委員長)， 池田良一， 荻澤健志， 小野寺敦志， 川副泰成， 佐々木千鶴子， 山中恵子， 松永宏子(事務局)

(査読委員：岩下寛， 田中英樹， 松田ひろし， 是恒正達)

施設基準と倫理委員会：小林暉佳(委員長)， 小野寺敦志， 窪田彰， 菅野圭樹， 長瀬輝誼， 平川淳一， 古屋龍太， 松永宏子(事務局)

入会申込

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更されました。

現在約800名の会員があり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めておりますが、今後幅広くその他のデイケアおよび関連分野で活躍されている方々の参加も望まれます。また、年次大会は一昨年は東京で、昨年は新潟で開催されました。今年度は9月に熊本で開催されます。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正会員：入会金1,000円＋十年会費8,000円＝9,000円 団体会員：3名までは、入会金5,000円＋十年会費20,000円＝25,000円
(3名を越えるときは、1名につき年会費5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-14 株式会社キタ・メディア内 日本デイケア学会事務局

TEL&FAX: 03-3813-6368 e-mail: info@daycare.gr.jp URL: http://www.daycare.gr.jp

キリトリ線(ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。)

入会申込書(正会員用)

申込日

平成 年 月 日

氏名	フリガナ	性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日	
職種	所属先名称(勤務先)								
所属先所在地	〒			電話番号	()				